

		サービス利用・提供状況	平成23年度事業計画の執行評価	
平成23年度の概況	概況			
	①平成23年3月11日の東日本大震災の混乱と不安の中のスタートであった。多数の帰宅困難者の受け入れを踏まえ、防災対策は、区の防災課および地域町会とも連携し、地域の中の施設としての役割と今後の対応を検討した。また電力不足のため年間を通じ節電に努めた。	事務局担当	1 法人事務局との連携の下、より正確な介護報酬請求等を行っていくことが出来た。 2 法人事務局主導の下、家族支援システムをより定着化していくことが出来た。 3 経理業務を集約化へ向けて、整備を行うことが出来た。 4 施設の窓口として、ご利用者やご家族の方々へ親切な応対を心がけた。	1 平成21年度から平成30年度までの指定管理期間の第3年度目として、諸関係機関との連携のもとで「安心・安全・信頼」を得られるよう、岩本町ほほえみプラザの各事業全体として、サービス向上に努めた。
	②平成21～30年度の第2期指定管理者(平成20年12月24日決定)として第3年度目を終了した。	運営・管理	1 各委員会の活発な活動で、各種研修、訓練の実施によりサービスの向上につながった。 2 夕涼み会は節電のため「納涼会」として時間を短縮し日中に開催。地域住民との交流を通してふれあいの機会を設けた。 3 食事サービス事業の「訪問食事サービス」を平成23年度中、引き続き実施した。 4 SVと連携し、事業推進会議を軸に各種打ちあわせ、サービス向上に努めた。	1 健康回復支援ショートや食事サービス事業総合相談を通じ「あんしんセンター」との連携を図ることができた。
	③食の事業については、会食会(かんだ連雀はあとサロン・岩本介護予防参加者対象)を実施し食のサービスの拡がりを見出した。	区民施設等	1 区民の方々が区民施設の多目的ホール等を利用して介護予防事業等に参加し、心身機能の維持向上に努めていただいた。さらに地域住民との交流の場としても成果を上げることが出来た。節電等のため部屋の一部消灯を実施し、自動販売機の照明を停止した。 2 地域住民の自主活動や区内企業等の研修会議の場として、区民施設等を利用していただき、社会貢献等の機会・活動を支援することが出来た。	1 地域の方々からの協力を得て、展示物や花壇など施設内外の環境の美化を進めた。 2 介護予防・地域交流・福祉・防災等の拠点として、多方面に施設が周知、利用された。
	④インフルエンザやノロウイルス等感染症対策を看護を中心に、全館で推進し、ほとんど発生はなかった。	デイ	1 通所介護(介護予防通所介護含む) 定員30名 実績 稼働日数:312日 年平均稼働率 75.2% 前年比 3.4%減 入浴ニーズ、個別機能訓練ニーズは昨年度同様高い(機能訓練延べ利用者数:4.9%増) 2 認知症対応型通所介護(介護予防認知症対応型通所介護 定員12名 実績 稼働日数:312日 平均稼働率 44.7% 前年比2.2%減。新規利用者:28名、廃止者:39名。高齢・重度化により利用者の世代交代期に入ってきている。	1 通所介護計画はプラン作成の流れが定着 2 利用者ごとに何を優先とすべきか各々考え支援することができた。 3 認知症研修を通じ、家族関係にも着目しコミュニケーションがとれるようになった。
	⑤経営的には、通所介護の不振が大きく、介護報酬収入面で苦戦、逆に前年に比し、人員体制が整った分、人件費が増え、収支バランス崩れ、収支構造の見直しが必至となった。	介護予防センター	1 一次予防介護予防事業 介護予防発表会・講演会平成24年2月26日(日)40名参加 ①ヨガ教室 全45回 延べ504名参加 ②書道教室 全22回 延べ273名参加 ③太極拳 全31回 延べ209名参加 ④カラオケ教室 全33回 延べ368名参加 ⑤スポーツ吹き矢 全21回 延べ233名参加 ⑥うたサロン 全20回 延べ339名参加 ⑦倶楽部岩本(ビリヤード) 全35回 延べ67名参加 ⑧絵手紙教室 全10回 延べ67名参加	1 猛暑の時期と厳しい寒さが長く続いたためか、体調を崩し、入院や静養される方が例年よりも目立ったが、新規参加者も増え、延べ参加者は前年を上回った。
	1 サービス向上 ①ほほえみサポート 個人登録38名、団体登録5団体、延べ 941名が活動した。 ②第三者評価(8/4-12/26デイサービス、ショートステイ、グループホーム、ケアハウス) ③情報公表(8/25デイサービス、ショートステイ、グループホーム) ④法人サービス自己評価・意見交換会(12/12～12/19、1/23) ⑤法人監事監査(2/9)、千代田区経営・財務モニタリング調査(3/2) ⑥各部署から構成する各委員会(防災・労働安全/衛生・研修・リスクマネジメント・サポート隊)の活発な活動を実施した。	健康回復支援SS	1 定員2名 11件(実利用人員8件) 延べ利用日数117日 1 自宅火災による緊急避難的利用から生活能力を高め在宅へ戻っていく利用の仕方など、滞在目的は多彩であった。なかでも、複雑な課題を抱えて利用にいたるケースは滞在が長期化し、あんしんセンター神田・千代田社会福祉協議会・他事業所との連携のもと支援を行った。	1 介護は必要としないが、一時的に何らかの支援(相談・連絡・調整)や食事の提供を行うことで、再び在宅に戻っていくことのできる中間層を支えた。
	2 地域交流・連携 ①1Fビロティエのスペースの活用(鯉のぼり、納涼会(7/23)、ラジオ体操(7/21-8/21)、わんわんパーティー(10/23)、いずみこどもプラザゲーム村(12/10)他) ②地域主催行事への参画(ラジオ体操、大門通り子ども連合会の盆踊りほか) 上記企画を通じ、利用者、職員が、地域との交流を深めた。 ③岩本町ほほえみプラザ運営協議会を2回開催した。(7/6、2/13)	ケアハウス	1 定員20名 稼働率93.6%(前年比1.3%増) 退居4名中3名は住まいの購入や家族の近くでの生活を求め在宅へ戻っている。 1 個室については、区報による公募で申込みがあり入居につながったが、二入室については問合せ自体が少なく、問い合わせがあっても、要介護状態であったりと、申込みには至っていない。 2 基本サービス(食事の提供・入浴設備の提供・生活相談・緊急時の対応・健康管理)を過不足なく提供し、地域で主体性を持った自立した生活を継続できるよう、必要時には家族・他事業所とも連携をはかりながら、それぞれの個別ニーズにも速やかに対応した。	1 入居者懇談会にて、保健所の講師を招き感染症に関する講演を行った。また、入浴や食事、防災に関する意見や要望を吸い上げ解決していく場ともなった。
	3 各事業について ①デイサービス(通所・予防通所30名 認知・予防認知12名) 稼働率 通所75.2%(前年78.6%) 認知44.7%(前年46.9%) 認知症現場研修で、家族背景への着目を学び、スムーズなコミュニケーションに繋がった。 ②ショートステイ(定員20名) 稼働率:101.0%(前年103.4%) 利用者の施設等への入所多く、特に年明けから稼働率が100%を割ってしまった。 ③グループホーム(定員9名) 入所1名、退所1名 入所判定会開催1回 稼働率:96.4%(前年99.0%) 「考えるケア」に徹し取り組んだ。 ④ケアハウス(定員20名) 入居:3名、退居:4名(入居判定会開催 2回) 年間稼働率:93.6%(前年92.3%) 情報共有、申し送りが徹底され、入居者個々への統一した支援を行えた。 ⑤健康回復支援ショートステイ(2室) 実人数8名、延べ117日 夏以降利用者がいない状態が続いたが、年末～年度末にかけて需要が集中した。 ⑥介護予防事業(一次予防) 一次予防:8教室 延べ2137名参加(男性 365名 女性 1772名) ⑦食の事業(訪問食事) 稼働日数 登録9名 312日 1083食(会食会) 12回 111食	グループホーム	1 定員9名(年度内利用、全員女性) 稼働率96.4%(前年比2.6%減) [入居者1名、退居者1名] 1 認知症現場研修(1～2回/月)をリズムとし、現象記録の充実に努め、対応による利用者の反応の違いや、職員それぞれの受け止め方の違いなど、チームとして課題を共有し、利用者会議の開催や、日常支援において常に「考えるケア」の実践に取り組んだ。 2 担当者会議の充実。個々の支援を明確にし、状況の確認や見直しを行なった。申し送りを徹底し、統一を図った。 3 ボランティアとの交流を定期的な交流機会として定着させることができた。	1 「考えるケア」の実践から、わからないことうまく出来ないことを課題として共有しチームで取り組むことが出来た。自身の考えや気が付いたことを共有することで、更に考え、充実した支援へと繋がった。
		ショートステイ	1 定員20名 稼働率101.0%(前年比 2.4%減) 要介護度 年間平均2.6(男性2.6、女性2.6) 構成比(要介護5…9%、要介護4…16%、要介護3…27%、要介護2…23%、要介護1…20%、要支援1…3%、要支援2…3%) 1 「短期入所生活介護計画」に基づいたサービスの提供を実践した。 2 利用者の満足度(サービスの質)を上げる取り組みとして、暦の行事を中心に実践した。 3 家族支援システムを活用した情報の共有をはかった。	1 家族支援システムを利用した利用中の様子等を記載した内容を家族や担当ケアマネジャーにも伝えるようにして、より緊密な情報共有を図った。
	看護	1 利用者情報の共有と連携は 4事業各部署への会議の参加で少しずつできてきている 2 感染症予防対策 他施設などにみられたノロ インフルエンザなどほとんどなく乗り切れた。 3 職員の健康管理 衛生指導も研修委員会の協力しながら行うことができた。	1 人員の補充により高齢化の進む利用者の対応が速やかに行え取り組むことができた。 2 個々のスキルの差・業務整理が課題	
平成23年度の課題	1 情報の共有・連携を深める ①朝礼・夕礼など利用者、事業情報の共有を進める ②連雀との連携を通じ神田事業所として、在宅から施設サービスまでの支援を行う ⇒更にかんだ連雀と情報共有、連携を強化し、神田エリアを補完していく	食事連携	1 平均提供食数:157食(年間提供数:57527食) 年間平均栄養価:1509kcal たんぱく質:58.5g 塩分:8.0g 1 継続して行なっている調理員発案の食事の提供では、郷土料理・選択食・プレート食の他に、新たに刺身盛などを行ない楽しみのひとつとした。 2 6月より真空調理による計画生産日での岩本主菜を開始。10月には連雀分の主菜計画生産の作成を開始、2月には連雀朝食の計画生産も始めた。それに伴い真空班の育成も計画的に進めてきた。育成の為の交換研修を年16回実施した。 3 新規事業として、訪問食事サービス(継続)や高齢者サロンへの食事提供を開始(年11回101食提供)。介護予防教室昼食会(3/6)を行ない10名の参加があり好評を得た。	1 計画生産を副業中心から主菜へと拡大出来た。 2 ケアハウス・グループホームの会議参加やショート入居状況表等で利用者の情報把握に努めたが、十分とはいえなかった。 3 職員の欠勤等があり真空計画生産班の育成計画を途中変更して対応した。府中施設との交換研修を定期的に行なう事で互いにより刺激となった。
	2 食事サービスを充実させる ①訪問食事サービス、会食会などを通して食の充実・見守りを行う。 ⇒デイのお持ち帰り等さまざまな食に関わるサービスの拡充が求められる	訪問食事	1 介護予防・件数の伸びは少ないが、認知症独居高齢者や対応時間帯のかかるケースの利用が多い。 稼働日数 312日 提供食数1083食 登録9名	1 事業の内容から、配達を職員による添乗と運転手の2名体制で行う必要があると判断し、H23年度途中より2名体制に変更。
	3 防災意識の向上を図る ①高層ビルに対応した防災訓練を実施する ⇒さまざまな角度での防災訓練を実施も、複合施設のむづかしさを痛感した。また東日本大震災も踏まえ、火災に加え、地震に対する訓練の拡充が求められる	総合相談	1 「健康回復支援ショート」「介護予防事業」「食事サービス事業」の地域支援事業がそれぞれ活発に動くことで、地域支援・予防活動を中心としたネットワークが広がった。 2 社会福祉協議会の事業と協力し、定期的な会食会を開催するなど地域・他機関との連携が深まった。	1 地域支援事業、困難ケースへの対応を通じ関係機関との連携が深まった。施設内各部署との連携・情報共有に関して今後の課題
	4 収支バランスを改善する ①稼働率の向上を図る ⇒とりわけデイサービスが苦戦 今後の戦略検討が急務である			
5 研修・委員会などを通じた職員育成をする ⇒新入職員が多い中、基本の徹底を図る				